

ソニー音楽財団の事業について

公益財団法人ソニー音楽財団
企画事業部 馬場桃子

はじめに

公益財団法人ソニー音楽財団は1984年10月に財団法人ソニー音楽芸術振興会の名称で設立された。活動の理念として音楽、オペラ、舞踊等の普及向上を図り、国際交流の促進、創造開発の活性化、人材の育成等に努め、我が国の文化の発展に寄与することを目的と定め、(1)子どもたちへの良質な音楽の提供、(2)誰もが気軽にクラシックを楽しめる環境づくり、(3)若いアーティストの育成・支援、(4)子どもへの音楽を通じた教育活動に対する助成、これら四つを軸として活動を行っている。

1. ソニー音楽財団のさまざまな取り組み

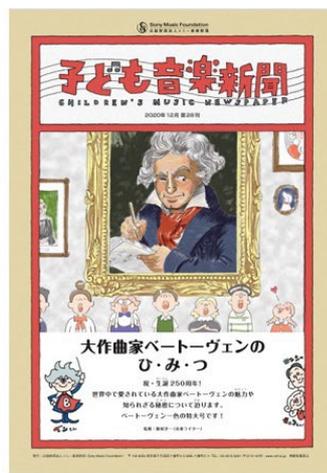
ソニー音楽財団の活動は、子どもたちへ良質な音楽を提供するコンサートから始まった。1985年から「0才まえのコンサート®～ママのおなかは特等席～」として妊娠期から子どもの胎教のためのクラシック・コンサートを開始したが、これは赤ちゃんが生まれる前から知能・情操が育まれることの重要性を提唱したソニー創業者である井深大（1908-1997）の提言のもと生まれたコンサート・シリーズである。つづいて、子どもたちの成長に合わせるかたちで「Concert for KIDS～0才からのクラシック®～」 「Concert for KIDS～3才からのクラシック®～」 「10代のためのプレミアム・コンサート」 「That'sクラシック！」等、ニーズに即したコンサートを開発してきた。そのなかでも「Concert for KIDS～0才からのクラシック®～」は、コンサート会場にベビーカー置き場やおむつ交換・授乳室を設置するなど、時代に先駆けた「機能」を備え、現在では全国各地で開催される大人気のコンサート・シリーズに成長している。今でこそ0才からの乳幼児期や妊娠期からの音楽鑑賞体験に期待される影響については広く一般的な価値として認知され、0才からの子どもを対象とするクラシック・コンサートやマタニティコンサートの数も増えてきたが、その先駆者として今も活動を継続している。



コロナ禍を経て2022年には、ゴールデンウィークの4日間に子どもを対象とした世界最大級のクラシック音楽の祭典「子ども音楽フェスティバル」を開催した。世界でも類を見ない子どものためのクラシック音楽の祭典として、サントリー芸術財団との共同主催にて、日本で随一の音響環境を誇るサントリーホールとその周辺施設を舞台に開催、会場でのリアル開催だけでなくオンラインでの無料配信も行い、4日間で延べ約29,000人の来場者、約93,000人の配信視聴者数を獲得した。



その他、「子ども音楽新聞」を発行、音楽評論家や音楽ライターを監修や執筆に迎え、作曲家や音楽史等について子どもたちに分かりやすく、興味を引く内容と構成で制作している。近年は全国の小中学校やピアノ教室への配布を通して音楽教育の現場で活用される事例も増えている。



誰もが気軽にクラシックを楽しむ環境づくりを目指す事業としては、1990年より「日本赤十字社 献血チャリティ・コンサート」を定期的に開催、2024年1月の開催で67回目を数える。

また、1985年から3年毎に「国際オーボエコンクール」を開催、2023年には第13回を数え世界で活躍するオーボエ奏者の登竜門として広く知られるほか、2002年には故齋藤秀雄夫人（2000年没）の遺志を引き継いで「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を設立、毎年若手チェリストと指揮者の顕彰を行うなど、若いアーティストの育成・支援事業も継続して行っている。

これらの活動に対して、創意工夫に富むプログラムを通して、さまざまな子どもたちの豊かな感性を育てていること、また、一貫して音楽を通じた次世代育成に寄与し、時代に即して事業を幅広く展開していることが評価され、優れたメセナ活動を表彰する「メセナアワード2020」「メセナアワード2021」（公益社団法人企業メセナ協議会主催）の優秀賞を2年連続で受賞した。

2. 時代に適した事業開発

ソニー音楽財団が行う多様な活動のうち、特に近年の活動を特徴づける事業について二つ挙げて紹介する。

(1) ソニー音楽財団 子ども音楽基金

財団の事業の四つ目の柱として2019年に設立したのが「ソニー音楽財団 子ども音楽基金」である。

子ども音楽基金は、先進国でも相対的貧困などに起因する教育格差が社会問題となるなか、地域・環境・経済状況などに左右されることなく音楽に触れることのできる社会の実現を目的として設立。2023年度までに合計48,085,143円（延べ81団体／新型コロナウイルス被害支援ⁱ含む）の支援を行い、多くの子どもたちへ文化的な体験機会を届けてきた。



ソニー音楽財団
子ども音楽基金

支援対象とするのは、日本国内の原則として18歳未満の子どもを対象に、音楽を通じた教育活動に取り組んでいる団体とその活動である。扱う音楽の分野は原則としてクラシック音楽およびそれに準ずるものと定めている。団体の定義としては、法人格を有するものだけでなく、法人格を有しない任意団体等も対象としている。したがってグループ、サークル、実行委員会など、比較的小規模かつ地域で活動する団体へも門戸を開いている。このことは、財団が主体となって単独で事業を行うよりも、よりローカルかつ多様な視点で地域的課題にアプローチし得るといふ、この基金の特徴に繋がっている。

拠出する助成金は一つの団体につき10万円から300万円とし、活動内容や活動規模に応じ、基本的には団体の希望額に基づき金額を決定するものである。助成対象となる経費については当該活動に係る費用全般とし、明確な制限を設けていない。よって、助成対象として認められないことの多い活動に係る人件費や、活動に直接関係する楽器等の備品の購入費も認められる可能性を含むため、限られた財政状況のなかでも良質な活動に取り組もうとする団体の支援に繋がりがしやすい仕組みを備えている。

選考については、有識者等から成る選考委員会を設けて行っている。選考の基準として第一に子どもへの音楽を通じた教育の促進に貢献する事業活動であるかという点、また、活動の目的の明確性や妥当性、団体の組織体制や計画の実現性、さらに助成終了後においても活動の継続性が保たれるか、等が挙げられる。現在の選考委員の顔ぶれは教育政策、幼児音楽教育、子どもの障がいや発達支援、子どもの貧困問題や社会福祉、助成事業など各分野に高い見識を備えた研究者等から成る。

これまで81の団体を支援してきたが、その採択実績についての詳細は子ども音楽基金ウェブサイトに掲載されている内容をぜひ参照されたい。ここでは内訳の割合を見ることで、この基金を通してどういった子どもたちのもとへ活動が届けられているかを示すこととする。

はじめに、採択された団体の種類について見ると、全81件のうち任意団体が33件（40.7%）、NPO法人が30件（37.0%）、公益財団法人8件（9.9%）、一般社団法人6件（7.4%）、社会福祉法人4件（4.9%）となっており、地域で活動する任意団体やNPO法人が合わせて8割近くを占める結果となっている。

次に活動の種類について、どういった立場にある子どもたちを対象としているかという点であるが、経済的困難を抱える子どもを対象に含む活動が24件（44.4%）、障がいのある子どもを対象に含む活動が17件（31.5%）、音楽による教育機会の乏しい子どものための活動が13件（24.1%）となっている。ⁱⁱ 経済的困難を抱える子どもについて具体的には、児童養護施設に暮らす子ども、一人親家庭

の子ども、障がいのあるきょうだいを持つ子どもなどが対象であった。障がいのある子どもについては、入院中の子ども、特別支援学級に通う子ども、児童デイサービスを利用する子ども、また、そうした子どもたちの居場所づくりといった社会包摂的な活動が実例として見られた。

地域分布については、北海道3件、東北地方9件、関東地方34件、中部地方7件、近畿地方12件、中国地方6件、四国地方1件、九州・沖縄地方9件となっており、地域的な偏りなく支援が届いている状況である。



(2) 無料モバイルアプリ「子育てクラシックナビ」

財団の取り組みの中で特にユニークな活動として、アプリについてご紹介したい。今、私たちは日常的に、ジャンルを問わず音楽に触れることができる環境にある。では、クラシック音楽をより身近に、しかも幼少期から親子で親しんでいただくにはどういったアプローチ方法があるのか？という問いを続けてきた我々がたどりついたのが、スマートフォンで利用できるモバイルアプリの開発である。

開発に至った経緯としては、上記の問いに加えてコロナ禍により子どもたちが外出機会を失い、生の音楽に触れる機会が激減した事実がある。そこで、今や日常生活に欠かすことのできなくなったスマートフォンをツールとして、より簡便にクラシック音楽の魅力にアクセスできる方法を創るためアプリの開発を決定した。約2年の開発期間を経てアプリ「子育てクラシックナビ」がリリースされたのが2022年3月のことである。2023年1月には新機能を追加、その後も現在に至るまで定期的なコンテンツ拡充やユーザー動向分析のための開発を重ねている。

アプリの機能は大きく分けて四つある。

i. コンサート検索

日本全国で開催されるクラシック・コンサートの中から、登録した居住地域や日程に合わせた情報を検索することができる。クラシック音楽情報ポータルサイト「ぶらあぼONLINE」よりコンサート情報の提供を受けており、子ども向けのコンサートのみが抽出されて自動的にアプリに反映される仕組みになっている。

ii. 動画

ソニー音楽財団公式YouTubeチャンネル「こどものためのクラシック」にて公開中の動画コンテンツをアプリ内で視聴することができる。子どもが視聴することを想定して設計されているため、ブラウザや他のアプリに遷移することなく視聴が可能。そのため、子どもがスマートフォンを使用する際に、別の予期せぬ動画や広告などに移動することがないという安全性を備えている。さらに、子どもが思わぬ操作をすることがないように、鍵をかけてページの移動を制限する、いわゆるチャイルドロック機能も付加している。

iii. よみもの

クラシックの音楽家や楽器、名曲などの音楽に関する豆知識や、アーティストへのインタビュー等を掲載している。小学校中学年程度からわかりやすく読めるような内容としている。

iv. ゲーム

「クイズ」「絵あわせ」の2種類のゲームがあり、クラシック音楽にまつわる楽器や作曲家などの様々な知識について、遊びながら学ぶことができるものである。動画機能同様、鍵をかけてページの移動を制限する機能を付加している。

アプリをダウンロードしたユーザーは、はじめに子どものニックネーム、生年月日や住んでいる地域を任意で登録する。ホーム画面を開くと、イラストとともに毎日更新されるひと言タイプの「豆ちしき」が目に入る。その下には、お勧め情報を表示する「ちゅうもく！」や「おすすめ動画」、居住地域に対応した「おちかくのコンサート」が表示され、自身で検索せずとも登録情報に基づいてある程度ターゲティングされた情報が並ぶ。気になるコンサートや気に入った動画は「お気に入り」登録機能を使って情報を保存することができる。また、アプリの様々な機能を使いこなすことで獲得できる「かくとくメダル」を設けるなど、ユーザーがよりアクティブにアプリを利用して情報にアクセスできるような工夫を凝らしている。



2023年9月からは一般社団法人全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）との業務提携を開始し、ピティナが持つ豊富なピアノ関連コンテンツをアプリに掲載するとともに、さらなるユーザー層の拡大を目指している。

おわりに

ここまで、第1項ではソニー音楽財団の活動の概要を述べ、続く第2項では、近年の活動を特徴づける活動として2つを取り上げてご紹介した。

ますます多様化する現代社会のなかで、クラシック音楽を中心とした文化振興というミッションを軸に、いかに社会情勢にマッチした事業を展開していくか、これが我々の課題である。テクノロジーを活用したアクセシビリティの向上やエンタテインメントの視点を活かした事業開発など、より特徴あるユニークな活動を創出・継続し、現代社会をつぶさに映し出す鏡としての文化芸術の在り方を今後も開拓していきたいと考える。

ⁱ 2020年「ソニー音楽財団 新型コロナウイルス対策特別支援プロジェクト」のうちの一つ、音楽を通じた教育活動に取り組んでいる団体のコロナ禍における活動継続のための支援を目的とする「『ソニー音楽財団 子ども音楽基金』新型コロナウイルス被害支援」。2020年11月に27の団体へ1団体につき最大50万円、計810万円の助成金を支給した。

ⁱⁱ 新型コロナ被害支援事業27件については、中止を余儀なくされた活動へ支援する事業のためカウントの対象外とした。